

小学校 第1学年 道徳科 学習指導案

埼玉県川口市立木曾呂小学校
教諭 渡辺 真

主題名 きまりを まもる

教材名 5 これって いいのかな(1時間)

内容項目 C 規則の尊重

本時の
ねらい 約束やきまりを守ることにについて考えることをとおして、約束やきまりの大切さに気づき、約束やきまりを守って生活していこうとする判断力を育てる。

指導時期 6月ごろ

「指導者用デジタル教材」活用の意図・目的

1. 資料提示のメリット

1年生のこの時期の教材には文字はあまりなく、教材の絵の中から約束やきまりに関わることを探していく。その際に、大型テレビにこの教材を映し出すと、学級全体で同じものを見ながら確認することができる。また、「指導者用デジタル教材」の「ズーム」を活用すると、より細かなところまで確認することができる。


2. 「ペン」の活用

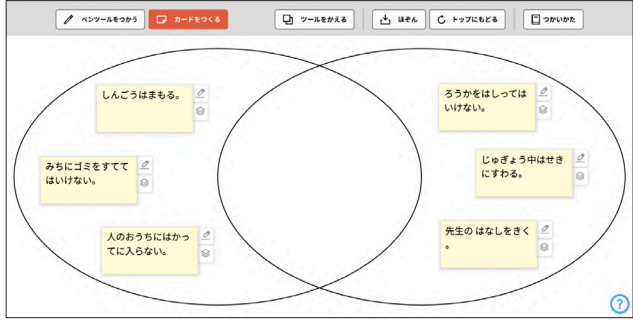
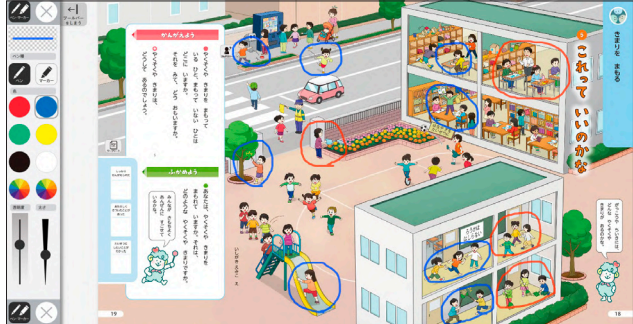
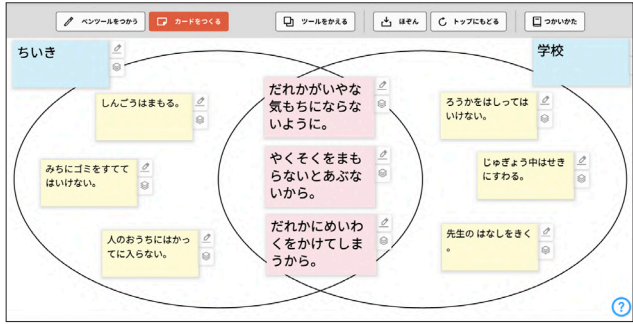
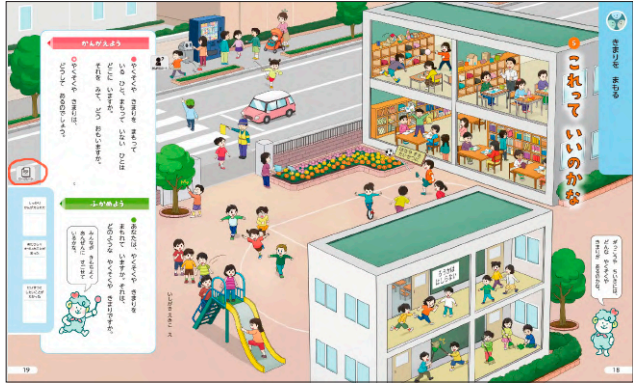
タブレットの入門期でもある1年生のこの時期は、まだ文字入力には難しい。そこで、「ペン」を活用して見つけたことに丸をつけるようにする。赤や青など色を指定して丸で囲ませることもできる。

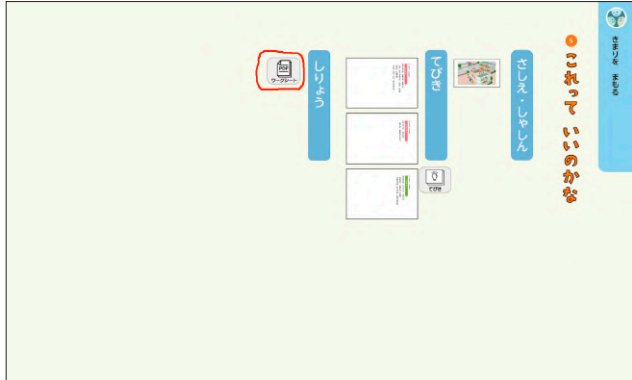
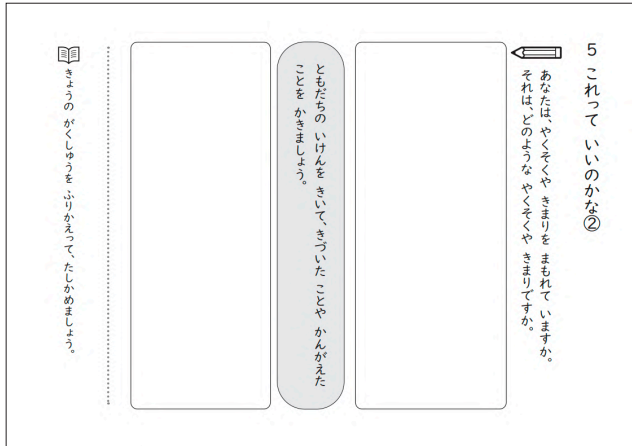
3. 個別最適な学びと協働的な学びのために

1年生のこの時期のことを考えると、タブレットではなく、印刷したプリントに丸をつける方法もある。また一人一台端末を使うのではなく、班で一台を活用することでより協働的な学びに近づけていくことも考えられる。何を使うかを児童に委ね、選択させたり、教師が選択したりしていくなど、学級の実態に応じて活用していく。これにより、個別最適な学びと協働的な学びが促されていくことが期待できる。

本時の展開

	活動内容	デジタル教材の活用
導入	<ul style="list-style-type: none"> ●「指導者用デジタル教材」の初期画面を開いてコンテンツを起動する。 <p>T：学校や地域にはどんな約束やきまりがありますか。</p> <p>C：学校の廊下は走ってはいけない。</p> <p>C：道路にある信号は守る。</p>	 <ul style="list-style-type: none"> ●「指導者用デジタル教材」の「思考ツール」にある「ペン図」を開き、学校のきまりや地域の約束について出てきたものを整理していく。

	活動内容	デジタル教材の活用
導入	<p>◎：道にごみを捨ててはいけない。</p>	
展開	<p>●「指導者用デジタル教材」p.18・19を大型テレビに提示し、拡大縮小しながら、約束を守っている人や守っていない人を探す。</p> <p>T：約束やきまりを守っている人、守っていない人はどこにいますか。それを見て、どう思いますか。絵の中から探して、守っている人は赤、守っていない人は青で囲みましょう。</p> <p>◎：横断歩道ではないところを渡っている。(青)</p> <p>◎：図書室で静かに本を読んでいる。(赤)</p> <p>T：約束やきまりは、どうしてあるのでしょうか。</p> <p>◎：守らないと危ないから。</p> <p>◎：みんなで使う場所だったり、物だったりするから。</p>	 <p>●約束を守っている人は「赤」、約束を守っていない人は「青」と色を区別して「ペン」で囲む。</p> <p>●適宜拡大しながら、探す補助をする。</p> <p>●完成したものは、学習支援ソフトウェアを用いて共有することも考えられる。</p>  <p>●導入で使用した「ベン図」に「『ちいき』と『学校』に共通することはあるか。」と問いかけ、約束やきまりの共通点についても整理し、まとめていく。</p>
終末	<p>●約束やきまりについて、自分ごととして考える。</p> <p>T：あなたは、約束やきまりを守れていますか。それは、どのような約束やきまりですか。</p> <p>◎：図書室で読んだ本は、元の位置に戻している。</p> <p>◎：みんなのボールは順番で仲よく使うようにしている。</p> <p>◎：公園ではごみを捨てないようにしている。</p>	 <p>【「指導者用デジタル教材」紙面】</p>

	活動内容	デジタル教材の活用
終末		 <p>【指導者用デジタル教材】紙面</p> <ul style="list-style-type: none"> ●「指導者用デジタル教材」「学習者用デジタル教材」とともに、ワークシートが収録されている。(赤枠で囲んだアイコン)  <ul style="list-style-type: none"> ● 1年生の発達段階を考え、印刷したワークシートに書かせることもできる。このワークシートはタブレット上でも「ペン」で記入できるので、児童の実態に応じて使用することができる。
終末	<ul style="list-style-type: none"> ■ T：約束やきまりを守ることにどう思いましたか。 ◎ C：約束やきまりを守らないと誰かに迷惑をかけてしまう。 ◎ C：みんながよい気持ちで生活するためにも必要なものだと思う。 ◎ C：自分は守れていないこともあったので、これからは、守っていきたいと思った。 	<ul style="list-style-type: none"> ● ここでも、紙のワークシート、タブレットなど、いくつかの選択肢の中から学級の実態に応じて選択できるようにしていくとよい。 ● 振り返りをまとめたものについては、学習支援ソフトウェアで共有してもよい。

「指導者用デジタル教材」を活用したことで得られた効果

①教材準備にかかる時間の短縮

「指導者用デジタル教材」を使い、大型テレビに教材の絵を提示することにより、事前に準備する時間を短縮することができた。授業前に拡大印刷をしていた時間がなくなり、教材研究をする時間をつくることができるようになった。

また、絵の拡大や縮小をすることができるのもデジタルならではのよさであり、児童の注目を集めることができた。

②表現の選択肢の増加

「約束やきまりを守っていない人はどこにいますか。」という発問では、「指導者用デジタル教材」を活用してまとめるほか、「学習者用デジタル教材」を活用することで、児童が「ペン」を活用して探すこともできた。

学級の実態に応じて、タブレットを班で一台使用したり、紙で実施したりと方法はさまざまである。選択肢の幅が広がることにも、デジタル教材を使用するメリットがある。

指導者は、どのように支援していくかを考えて選択することができ、児童たちも少しずつ、「この場面ではタブレット」、「この場面では紙」などと選択できるようになるだろう。

③「思考ツール」の活用

「指導者用デジタル教材」にある「思考ツール」の「ベン図」を活用して、地域と学校での約束について整理することで、児童は視覚的に捉えやすくなった。

また、「約束やきまりはどうしてあるのでしょうか。」という発問では、導入で使用した「ベン図」に、「ちいき」と「学校」の共通点についても、つけ加えていく。デジタルのよさは、再現性があることでもあり、今まで使用していたものに追記していくことで、時間短縮や理解の深まりにつながった。

④デジタルとアナログの選択

「指導者用デジタル教材」「学習者用デジタル教材」を使用するメリットもあれば、紙を使用したほうがよい場面もある。1年生の段階から、自分で自分に合った表現方法を選択していくような素地を育てておくとうよいだろう。学級の実態に応じてデジタルとアナログの選択を行う。これが個別最適な学びへとつながっていくのである。